

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あんしんすこやかセンターと協会し、認知症の理解のためにホームの見学会をしている。運営推進会を2ヶ月に1階開催し、地域の方々にも参加して頂きホームの運営・考え方を伝える機会を作っている。	地域の自治会への挨拶回りや民政府の方々の集会等について説明し、地域に理解していただける様に努力していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームに関する法令の意義を理解し、理念に取り入れて勉強会・ミーティング、日々のケアで気になれば、その都度説明している(どうしてこのシーンがひつようであるのか?その方法では子供扱いにはならないのか等)	グループホームに関する法令の意義をより深く理解できるような勉強会を増やしていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会を2ヶ月に1回開催し、地域の方々にも参加して頂き、ホームの運営・考え方を伝える機会を作っている。	グループホームにて行われる行事について、地域の方々との交流を増やしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者がホームの中だけで過ごさずに積極的に近所に出かけて、楽しめるような雰囲気を作っている(買い物・散歩等)	近隣訪問・集会参加等の機会が持てるよう、自治会と連携していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者や家族と相談・協力して行事での外出等、機会を作っている。(地域の行事、集会に出かけるホーム主催での花見・小旅行等の企画、実施する等、日帰り旅行、名所見学、花見、ルミナリエ等の外出の機会をご家族と相談して行っている。)	地域性により坂道が多く、トラック等往来が頻繁な為、外出時にはスタッフが必ず同行し、安全に注意しているが地域との連携、働きは難しい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの機能を認知症ケアに関わる知識・技術等を入居者のケアに配慮しつつ、地域に開放している(認知症の理解・関わり方についての相談対応。家族、ボランティア等の見学、研修の受け入れ等)		認知症についての理解を深めていくための教室開催等を行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価を公開している事により、誰もが閲覧することが出来、その事により職員の業務に対する意識向上に努めている。		幾つかの項目については、職員間でも共通した理解を得られていない箇所もあり今後、課題としていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に家族とコミュニケーションを取り、入居者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(写真等の送付)相談や苦情を積極的に受ける姿勢があり、入居者や家族からの苦情が寄せられた場合には、職員で速やかに対策案を検討し、回答すると共にサービス改善に繋げている。		「たより」の発行、行事ビデオの上映を行ってきたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あんしんすこやかセンターと協会し、認知症の理解のためにホームの見学会をしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	契約書について分かりやすく示し、入居者及び家族等にも説明し、同意を得ている。		成年後見制度については、学ぶ機会が極端に少なく、今後の検討課題である。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内での虐待は無い。		高齢虐待防止関連法についての勉強会には学ぶ機会をもちたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	見学時・面接時・入居時に文章と口頭での説明を充分に行い、了承を得ている。	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	第三者に苦情を伝える機会を設け、玄関には公的機関への苦情を受け付けるポストを設置している。苦情があった場合内容を検討し、対応策を考え早期に対応している。	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	ご家族のご訪問時には(毎日お越しになる方から月に一度の訪問)に日常の様子をお伝えし、意見・希望を気軽に伝えたり、相談できるように積極的に働きかけている。	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	2ヶ月に1度、開催される運営推進会では家族からの意見・不満等を伺い早期に対応している。	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	必要に応じて職員との面談を設け、意見・提案を聞く機会を設けている。又、1ヶ月に一度のスタッフミーティングでは、意見交換を行っている。	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	入居者の体調や、精神的な状態に応じてのスタッフの人数の調整を行っている。	退職する職員もあり、現在スタッフ増員に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の状態や生活の流れを支援する為に、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がフォローアップ等、それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容を全ての職員に周知している。必要に応じて外部からの研修、講習も受講している。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設での勉強会に参加している。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を取り入れている。		スタッフ間の親睦を深め、悩みを相談しやすいような環境を作っていきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務上の担当があり、その個人の能力に応じた研修に参加させ、研修報告書の形で他の職員に報告し、発表している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人からの訴え時には傾聴し、不安な事への軽減、要求についての話し合いを行い、ケアカンファレンス等で繁栄している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所時には、聞き取り調査等を行い、不安な事・要求等を改善できるように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族、ご本人と十分に話し合い、ケアマネジャーや医療機関等の情報交換を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>個人の趣味や出来ることに合わせて役割や楽しみ事を持っていただける様にご家族・ご本人と相談しながら支援していく。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホーム内で入居者一人一人が楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面作り等の支援を行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	年間行事計画を立て、家族の方にも参加して頂き季節感を味わって頂いている。行事には一人一人の持てる力に合った役割に参加して頂いている。		
29 利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるようにプライバシーに配慮しつつ支援している。(手紙・電話等の利用の奨励)		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その地域や、入居者に馴染みの季節の習わし等を入居者に主体になってもらいながら家族的な雰囲気で行っている。(お正月・節句・お祭り・ユズ湯等)		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者同士が、一緒に過ごせるように職員が配慮している。孤立やコミュニケーションが困難な方には職員が仲介するようにしている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居に至っても、自由に来訪していただける様な環境作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人一人の状態像・生活特性(生活歴、ライフスタイル等)入居者や家族の求めている事を把握し、これによってアセスメントを行い課題を明らかにしている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居者個人の現在の状況、生活歴等を入居者とのコミュニケーションや家族からの情報を聞きながら把握して、アセスメント・課題を明らかにするようにしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居時に生活歴や趣味、大事にしている物等を家族や本人から教えて頂き、援助に活かすようにしている。又、新しい情報も日々の生活の中から発見するようにしている。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月に一度はミーティングをして、意見交換を行っている。必要に応じて臨時に職員間のミーティングも行っている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間は短期3ヶ月、長期6ヶ月が前提で作成している。状態に応じて見直すようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化の記録は細やかにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	心身の変化に応じて、気軽に相談できる医療機関等を確保している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣小学校や、他の介護保健施設・スーパー・喫茶店等に説明し、理解していただけるように働きかけている。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の介護保健施設等のケアマネジャーの助言や意見を聞き、入居者の方の相談に応じ支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	できていない。		今後の課題として取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の変化異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療機関に「物忘れ外来」があり、定期的に受診している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護stと連携しており、看護師が日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、早期退院の為の話し合いや協力を医療機関と行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度対応・終末期ケア対応指針に同意していただいている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	訪問看護stと連携により、入居者の方の急変時には対応できる様な体制を整えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>事例はないが、ご本人・家族様が混乱されないように他機関との連携を図り、段階を経て移り住んでいただくよう努めている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は常に入居者一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応にならないように努めている。又、理念にも入っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員は入居者一人一人の伝えたいことをしっかり受け止め、入居者が自分で決めたり、希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(十分に話を聞く・顔を見ての対応・選んでもらう場面を作る・選ぶのを待つ等)</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は、職員側の都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者一人一人の個性を大切にした髪型や服装、おしゃれを支援している。個人の好みを尊重し、洋服を選んで頂いている。認知症の進んでいる方で選べない場合には、好みをご存じのご家族様の要望にあった服装を支援している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いとして、ご家族から金銭をお預かりしているが、個人でもお持ちであり、買い物時に支払をして頂き自室にて管理して頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	喫茶店に行ったり買い物に出かけたりしているが、特定の入居者に偏っているのが現状である。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	クラス会・外食など家族にも協力頂き、希望される外出先に出かけてもらっている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話を使って頂いている。 手紙や年賀状を書いて頂くように勧め支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来訪して頂けるような雰囲気作りやお誘いをしている。 いつでも宿泊でき、食事もご一緒して頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」は行わない。 戸に鍵をかける事等も含まれる事を説明し、認識している。転倒のリスクの多い方には、鈴が鳴るようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白でその理由を家族に説明している。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者を見守りやすい場所において入居者一人一人の位置と様子が分かるように声を掛け合いながら見守っている。記録はリビングで昼夜共にしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人の貴重品等は、事務所にてお預かりしている。 危険物に関しては、事務所にて預かり、使用する際にはスタッフが見守る。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時には、事故報告書を作成し、原因や改善点を話し合い、再発防止の工夫をしている。報告書には全職員が目を通し、サインしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時に備え、訪問看護師が夜間でも対応できるような体制をとっている。		研修・講習等で得た知識を共有する。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	簡易スプリンクラーが設置されている。 避難設備・警報設備・消火設備も備えており、年間2回の消防訓練を実施、火災発生時の対応マニュアルを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こりうるリスクについて、その場面に応じた説明を事前にしよう心かけ、承諾を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	高血圧等の循環器疾患の持病がある方が多く、入浴時以外にも、血圧測定が必要なことが多い。顔面紅潮があったり、食欲がなかったり、訴えのある時等、必要に応じてバイタル測定を行い、記録している。異常時には早期対応を心かけている。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の用法・用量を守り、服薬支援をしている。(日誌に各薬シートを挟んでいる。)高圧剤服用中の方には血圧管理ノートに記載し、医師に診てもらっている。薬が変わった時や副作用が特に注意が必要な時には申し送りや送りノートで知らせている。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く摂って頂くようにし、食事には野菜類の繊維物を多く取り入れるようにしている。朝食にはヨーグルトやフルーツ等取り入れ、便秘防止に努めているが下剤を服用している方も多く医師との相談の上、調整を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	眠前に義歯をポリドントにつけるようにしており、出来ない方には出来る所までして頂き、仕上げを支援するようにしている。(歯磨き・うがい) 入れ歯が合わずに痛みが生じた場合には、歯科受診をし、医師に相談する等している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表使用しており、日誌に記入し把握しており、摂取量の少ない時には体調確認等をしていくようにしている。水分は、脱水や便秘にならないように、配慮して飲んで頂いている。腎不全浮腫のある方には量に注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	入所時には健康診断でチェックしており、それ以外には、インフルエンザの予防接種や手洗い・うがい・冬期の加湿等で、予防している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	業務表や週間予定表に記載しており、消毒や清掃を行っている。まな板・布巾は、夜間帯に漂白消毒、包丁は熱湯消毒、週一度の冷蔵庫・洗濯機の清掃、消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の外周りやベランダを入居者が楽しんだり、活動できるように活かしている。(物干し場・園芸)		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓にはテーブルクロスをかけ、季節の花を飾るなどし、ご家族や職員関係者に呼びかけて、懐かしみのある家具類を集めて、玄関前には、草花を植え、家具類も家庭的な物を置いている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に入居者が一人になったり、気のあった入居者同士で自由に過ごせる様、ソファや食卓で過ごされる方、事務所前の椅子に座られ、2・3人で話されたり、お茶を楽しまれたりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ暮らしやすいように、落ち着けるようにと家族と相談し、家具類の持ち込みをして頂いている。仏壇の持ち込みもして頂いている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室・トイレ・風呂場には換気設備が整っており、必要時には、リビング内に温度計が2カ所有り、外気温との差には十分に注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる箇所(廊下・トイレ・浴室)に手摺りがある。今後は機能低下に合わせて設置予定である。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には、使い慣れた家具や生活用品・装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	畑を作り、入居者の方に水やりや手入れ方法を教えて頂きながら作っている。洗濯物は屋上と1階に有り、入居者の方と共に干している。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員が常に優しく、一人一人入居者様に適したサービス・対応・言葉かけをしており、その立場にたった支援をしようと努力している。